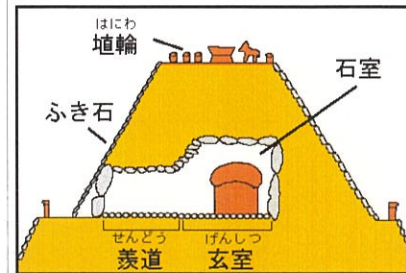


いずみざきよこあな 4. 泉崎横穴	国指定 史跡
	泉崎村
泉崎村泉崎字白石山1-8	昭和9年5月1日
	

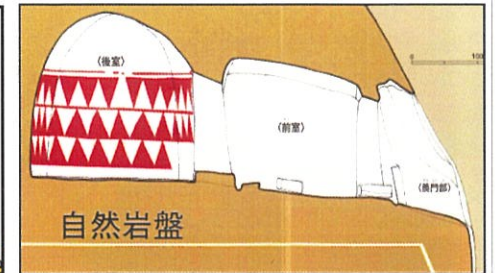
泉崎横穴は、今から約1,400年前につくられた横穴墓です。昭和8年に道路工事をしているとき偶然に発見されました。横穴墓は当時7つ発見されましたが、その内の一つ横穴墓内部に赤い顔料で絵画描かれていることがわかりました。絵画の内容は、人物や馬などの動物、渦巻などの幾何学文様で、横穴墓の玄室と呼ばれる部屋の壁面や天井いたる所に描かれています。このような古墳時代の古墳や横穴墓に描かれた絵画のことを装飾古墳といいます。発見された当時、東北地方での装飾古墳の発見ははじめてのことで、大々的に報道され話題を集めました。他の横穴墓は無くなってしまいましたが、この絵画が描かれた横穴墓は国史跡として保存されることになりました。

よこあなほ 横穴墓とは

古墳時代は、その名のとおり特長は前方後円墳を代表とした古墳がつくられた時代です。しかし、時代の終わりに近づくにつれて大型の古墳は小型化していき、古墳につくられる横穴式石室という遺体を埋葬する部屋の形を真似してつくられる横穴墓がつくられるようになります。横穴墓は岩肌が露出した自然の岩盤を掘ってつくられています。泉崎村をはじめとした白河地方は凝灰岩という比較的加工のしやすい岩が地盤となっている場所が多く古墳時代の終わりに横穴墓が数多くつくられました。



古墳の横穴式石室模式図

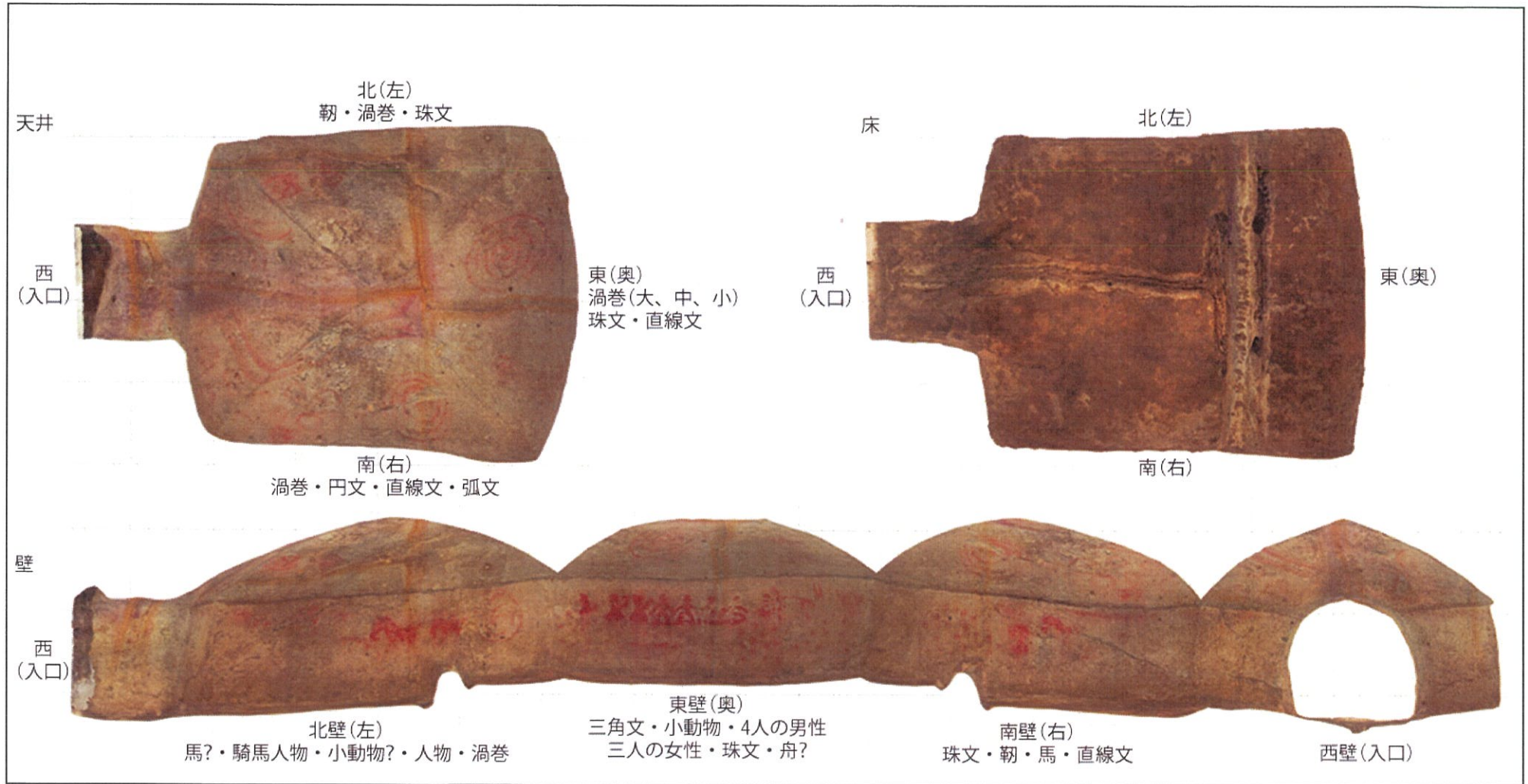


横穴墓の模式図(参考:中田横穴)

古墳と横穴墓に埋葬される人

古墳は墳丘とよばれる山をつくってから埋葬する部分をつくる大変な労力があるお墓です。当然、豪族の王や家族のように権力のある人たちにしかつくれません。一方、横穴墓は自然の岩盤をくりぬいてつくるので、古墳ほどの労力を必要としませんし、短期間に数十～数百基がつくられていることから王の家来や有力者のお墓と考えられています。

これが泉崎横穴の全貌だ



この図面は、立法体の泉崎横穴を展開したものです。次のページには立体の写真があるのでよく見比べてみてください。

左上は天井で、渦巻や円文、帯のような直線、三角が重なりあった幾何学文様が描かれているのがわかると思います。右側は床面で、中央やや右側にタテの仕切りが見えます。堤状に段がつくられていてここから右側(東壁際)に遺体を置くようになっています。下の写真は四角の部屋を4面に開いたものです。馬や人が見える。遺体が置かれた側(東壁)の絵は中でも内容豊かなものになっている。



泉崎横穴の立体復元写真

いづみぎきよこあな へきが
泉崎横穴の壁画



東壁：手をつなぐ4人男性の左側には捧げ物をする2人の女性その左側にも盛装の女性が見える



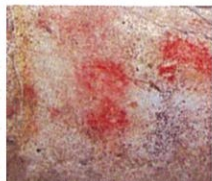
東壁：耳の長い動物を追うように弓をひく騎人物見える。



東側天井渦巻



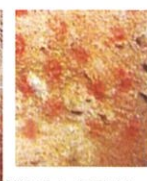
北壁：人が馬を引いている姿(左側)と小さな子供を乗せた馬(右側)



南壁：鞆(ゆぎ)と呼ばれる弓矢をいれる道具



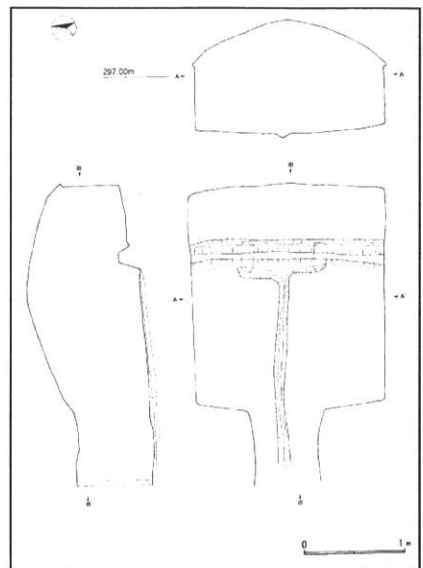
北側天井：鞆が二つ並んでい



珠文：天井や壁面のいたるところ

いづみぎきよこあな ないよう
泉崎横穴の内容

げんしつきほ 玄室規模	東西長2.12~2.30m 南北長1.90~2.00m 高さ1.16m(最大)
せんどうきほ 羨道規模	幅0.7高さ0.74長さ0.6m
ぜんたいきほ 全体規模	奥壁~入口 長さ2.9m
げんしつけいたい 玄室形態	宝形づくり
ちしつ 地質	石英安山岩室熔結凝灰岩
ぞうえいじき 造営時期	6世紀末~7世紀初頭
その他	玄室中央に排水溝有
しゆつどひん 出土品	鉄刀・刀子・鉄環



泉崎横穴の平面図

へいせい だいしゅうふく
平成の大修復

泉崎村は泉崎横穴の将来的な保存のため平成17年より3年をかけて大規模修復を実施しました。その内容は、外部環境の改善と内部の洗浄やひび割れ補強などの内部環境の改善、そして一般公開環境の改善の大きく3つが行われました。この修復により泉崎横穴は平成20年春より再び一般の方々へ公開できるまで回復しました。



修復作業の様子



外部環境の改善



内部環境の改善



発見当初の写真

福島県の装飾古墳

一般には古墳の石室内部に顔料や彫刻によって絵が描かれているものを装飾古墳と呼んでいます。古墳石室を真似してつくった横穴墓の部屋に絵があるものも装飾古墳と呼んでいます。

福島県では、現在までに見つかっているすべての装飾古墳は、すべて横穴墓です。泉崎を含め10遺跡で確認されておりそのうち保存して史跡指定されているものが4基あります。

どれも6世紀後半から7世紀のはじめにかけてつくられており、構造や壁画の内容には共通する部分が見られます。

例えば、壁画はすべてベンガラという赤色顔料が用いられていることや泉崎・羽山・清戸迫横穴では絵の内容が似ていることなどがあげられます。しかし、分布状況をみると泉崎横穴以外の装飾古墳がすべて太平洋岸にあることや東日本全体でも大半が沿岸部に集中しているようです。



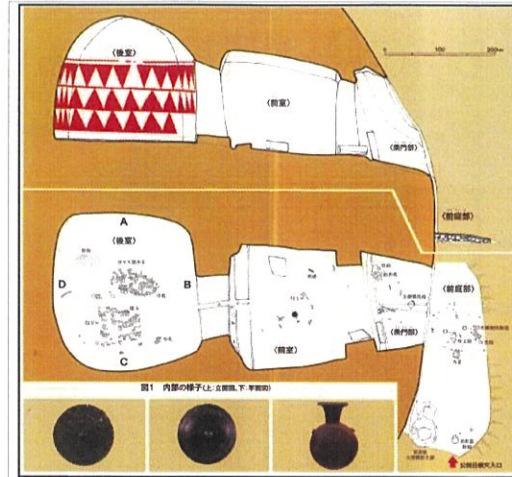
中田横穴(いわき市)



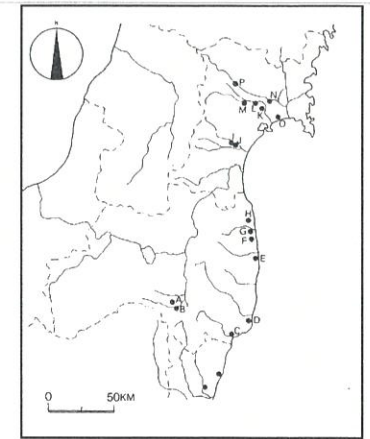
清戸迫横穴(双葉町)



羽山横穴(南相馬市)→



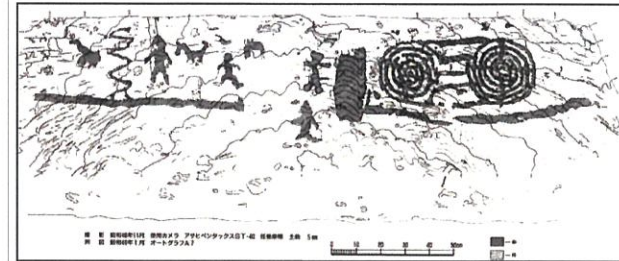
中田横穴の壁画と平面図



東北の装飾古墳分布図

(生田目利 『福島県泉崎4号横穴墓考』2001)

中田横穴は未盗掘の横穴で、内部に三角文様の幕のような壁画が描かれていたほか、馬具などの大量の副葬品が見つかった。



羽山横穴の壁画図面

羽山横穴には人物や馬のような動物、車輪のような渦巻きが赤色で描かれている。矢印をしたところには白色で鹿のような動物が描かれている。



清戸迫横穴の壁画図面

清戸迫横穴には、鎧をつけた人物が大きく二人描かれているのが特長。中央に描かれた、渦巻きは大きな方の人物の肩あたりに接続されている。他に弓を射る人や騎馬(子ども?)人物など描かれている。